

「MoMA ニューヨーク近代美術館」展 「イリヤ&エミリア・カバコフ」展 好評開催中

森美術館〔港区六本木：六本木ヒルズ 森タワー / 館長 デヴィッド・エリオット〕では現在、「MoMA ニューヨーク近代美術館展 モダンってなに？：アートの継続性と変化、1880年から現在まで」（～8/1）と「イリヤ&エミリア・カバコフ展：私たちの場所はどこ？」、「MAM プロジェクト 002 ジュン・グエン＝ハツシバ」展（両展とも～7/19）を開催中です。今春スタートしたこれら3つの展覧会にはたいへん多くの方々にご来館をいただいております。会期末に向かってますます好評をいただいております。

7月9日「オールナイト MoMA」を実施

好調を続ける MoMA 展では、さらに多数のご来館者にお楽しみいただける企画として、7月9日限定の「オールナイト MoMA」を実施いたします。MoMA 展の会場、森美術館 53 階は 7月9日（金）深夜 24 時から翌 10日（土）朝 5 時まで開館時間を延長。延長時間内は入館料も通常料金の半額となります。会期終了日まで 1 カ月、オールナイト開館はじっくりと MoMA 展の全 252 作品をご覧くださいの好機です。

次回の展覧会は 「COLORS ファッションと色彩」展、「小沢剛」展

2004年8月24日から、森美術館では新たな2つの展覧会「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR® ROLF® KCI」展と「小沢剛：同時に答える YES と NO!」展を開催いたします。「COLORS ファッションと色彩」展はこれまで取り上げられることがなかった、「色彩」と「ファッション」の関係に焦点をあてる展覧会。ゲスト・キュレーターにオランダ気鋭のファッション・デザイナー、ヴィクター®ロルフ®を迎え、私たちが魅了する色彩の根源的な魅力を解き明かします。一方「小沢剛」展は 1990 年代以降の日本を代表する現代アーティストである小沢剛の初個展。世界各地で制作されている「小沢芸術」の主要作・新作を世界で初めての個展として一挙にご覧いただけます。

両展はそれぞれ意欲的なテーマ・視点を提示する、新しい試みとして各方面から注目を集めており、現代のアートの動向を示す重要な展覧会となります。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦

TEL: 03-6406-6111 FAX: 03-6406-9351

E-mail: pr@mori.art.museum

Web: www.mori.art.museum

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1

六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

COLORS ファッションと色彩： VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

会期：2004年8月24日（火）～12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53 階ギャラリー 1・2・3

◎ 21 世紀、ファッションはカタチから色彩へ - 私たちを魅了する「色」の力。

色彩は人びとの心をとらえ、時代を映し出し、その色を身にまとう意味を生みだしてきました。ファッションにおける色彩はあらゆる場面を鮮やかに、華やかに、時には厳かに彩ることで、私たちの生活そのものを豊かにしてきたといえます。本展は 17 世紀から現在までの、西洋における「色彩」の歴史的背景や社会的な意味合いを振り返りながら、時代の色と言える**黒、青、マルチカラー、赤と黄、白**をテーマカラーにして色彩の魅力を読み解いてゆくものです。比較的最近までファッションで最も重要視されたのは特徴のあるシルエット、ラインと呼ばれる衣服のフォルム（かたち）でした。しかし今日では衣服の「カタチ」ではなく「色」の存在が際立ち始めています。森美術館で体感していただけるのは、多くの衣装たちがもつ時代を超えた「色」です。これまで取り上げられることがなかった、「色彩」と「ファッション」の関係に焦点をあてることで、私たちを魅了し続けてくれる色彩の根源的な魅力、楽しさ、そして力強さをあらためて実感していただけることでしょう。

◎アートとファッションの境界を揺るがすデザイナーユニット、ヴィクターⓄロルフの5つの「色」

この試みをゲスト・キュレーターとして支えるのが、オランダ出身のファッション・デザイナー、**ヴィクターⓄロルフ (VIKTOR Ⓞ ROLF)** の2人組です。

PRESS RELEASE
プレスリリース

「ブラックホール」コレクション（2001年秋冬）では瞳以外、衣装も顔も全て黒づくめのモデルを登場させ、「ブルースクリーン」コレクション（2002年秋冬）ではビデオ編集で使われるクロマキー処理を用いるなど、色に特化した話題のコレクションを発表し続けています。本展では展示コンセプトを担当、会場はユニークで斬新な色彩世界に仕上がっています。

◎5つのセクションに彩られたファッションの変遷

京都服飾文化研究財団（KCI）の約 1 万 1 千点の収蔵品から選りすぐられた 17 世紀から現代までの衣装 87 点を、ヴィクターⓄロルフの作品とコレクション・ショーの映像を軸にしなが、「黒」「マルチカラー」「青」「赤／黄」「白」の5つのセクションに展示します。

展覧会は移り変わる流行色を思わせる、ヴィクターⓄロルフの 2003 年秋冬の作品から始まります。

「黒」 すべての色彩を取り込む黒は人びとを恐れさせると同時に魅了してやまない色です。**厳格さ、エレガンス、反抗**など、黒のイメージはファッションに繰り返し登場しています。19 世紀の女性の乗馬服、1920 年代のシャネルのプチット・ロブ・ノワール、パンクをとりあげた川久保玲のスーツ他 21 点を展示します。

「マルチカラー」 19 世紀後半の化学染料の発見、染色技術や色彩論の発達で多様な色彩の組み合わせが実現します。**18 世紀のマルチカラー**の豪華なドレス、

1960年代のポップ・アートやサイケの影響を受けたペーパードレスやサンローランのプリントドレス、コーディネートの可能性を示すジョン・ガリアーノ（クリスチャン・ディオール）の作品など17点を展示します。

「青」 世代や地域を越えて好まれた青。高価なタイセイの**パステル・ブルー**、化学染料が生んだ**モーヴ（ふじ）色**、庶民も好んだ**インディゴブルー**など、高貴な青から日常の青まで16点が登場。「ファッションはファンタジーや夢」というヴィクターⓄロルフの想いを伝える彼らのコレクション映像が「青」のギャラリーを際立たせます。

「赤／黄」 人びとが熱狂し、奔走した「色」の歴史が蘇ります。古来から人々が追い求めた色、赤。トルコや中南米まで、西洋の人びとは赤を求めて交易を繰り返しました。一方、中世まで西洋で異端の色だった黄色は、18世紀に流行した中国趣味により、一躍ファッションナブルな色となります。赤や黄の染料と共に輸入された東洋や新大陸の文化が、西洋の色彩感に影響を与えたのです。「赤／黄」には18世紀から19世紀のドレスを中心に、合計18点が登場します。

「白」 純潔性を表す白。それはこれから始まる新世紀への期待の現れだったのかもしれませんが。ここでは19世紀初頭の古代ギリシア・ローマ趣味がうかがえるモスリンのエンパイア・スタイルのドレス、20世紀初頭のシャネルのドレス、尼僧服から影響を受けたヴィオネのウエディングドレス、さらには21世紀の幕開けに登場した川久保玲の作品のほか14点がフィナーレを飾ります。

PRESS RELEASE
プレスリリース

ヴィクター Ⓞ ロルフ 略歴

ヴィクター・ホルスティング (VIKTOR HORSTING, 1969年 イスラエル生) とロルフ・スノーレン (ROLF SNOEREN, 1969年 オランダ生) の2人組。1993年ブランド設立、本拠地をオランダにおく。1998年パリにてオートクチュール、2000年よりプレタ・ポルテ発表。アートとファッションの境界を自由に往来するデザインは知的かつオリジナリティーにあふれる。2001年より色彩に特化したコレクションを開始。21世紀のファッションの可能性を提示する彼らの活躍はめざましく、2003年パリ国立衣装テキスタイル美術館（ルーブル宮）で回顧展が開催。

京都服飾文化研究財団 (KCI)

1978年、近世以降の西欧の衣装を収集、保存、研究、公開する機関として文部省の認可を受けて設立。その収蔵品を、「モードのジャポニスム」(94年 京都、パリ、東京、ロサンゼルス、ニューヨーク、ニュージーランドに巡回)、「身体」の夢」(99年 京都国立近代美術館、東京都現代美術館)などの「美術館で見る衣装展」によって公開してきた。2002年には「ファッション：18世紀から現代まで京都服飾文化研究財団コレクション」をタッチェン社から出版。10カ国語に翻訳され、8万部を突破した。

出品デザイナー

アズディン・アライア、クリストバル・バレンシアガ、ガブリエル（ココ）シャネル、クリスチャン・ディオール、ドルチェ&ガッバーナ、マリアノ・フォルチュニ、ジョン・ガリアーノ（クリスチャン・ディオール）、ジャン＝ポール・ゴルチエ、川久保 玲（コム・デ・ギャルソン）、三宅一生、ロベール・ピゲ、エミリオ・プッチ、イヴ・サンローラン、エルザ・スカパレリ、ヴィクターⓄロルフ、マドレーヌ・ヴィオネ、渡辺淳弥、ヴィヴィアン・ウェストウッド、山本耀司（姓のアルファベット順）

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00
火 10:00 - 17:00 (いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休
入館料(円)：一般 1,500、学生(高校・大学生) 1,000
子供(4歳以上・中学生) 500 *表示料金に消費税込
*展望台入館料含、また本展のチケットで小沢剛展(2004年8月24日 - 12月5日)もご覧いただけます。
お問い合わせ：TEL03-5777-8600 (ハローダイヤル)

主催：森美術館、京都服飾文化研究財団
企画制作協力：京都国立近代美術館
後援：オランダ王国大使館、J-WAVE
特別協力：株式会社ワコール
協力：日本航空、リュイナール(宝酒造株式会社)、株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社

「COLORS ファッションと色彩：VIKTORⓄROLFⓄKCI」は、京都服飾文化研究財団(KCI)と森美術館との共同開催で、京都国立近代美術館(会期：2004年4月29日-6月20日)に続き、森美術館で開催いたします。

〈カタログ〉
本展のカタログを展覧会に際して発売いたします。
サイズ：B5判 頁数：300頁 税込価格：2,400円

小沢剛：同時に答えろ YES と NO!

会期：2004年8月24日（火）—12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53 階ギャラリー 4・5・6

牛乳箱サイズの小宇宙が世界をひとつに繋ぐ！ 1990年代以降の日本を代表する現代アーティスト、小沢剛の世界初個展 ユーモアに包まれた批判的精神と「日本」への眼差し

小沢剛のアートの始まりは“牛乳箱”です。1960年代生まれのアーティストがアートシーンに登場しはじめた90年代前半、小沢は日本の貸し画廊の制度をユーモラスに批判した《なすび画廊》を展開。牛乳箱をギャラリー空間に転換し、さまざまなアーティストによる作品展示を牛乳箱空間で行い、ゲリラ的に街中の電信柱などに展示しました。アーティストにとって最も重要とされるオリジナリティを自ら放棄し、他者の意志が介入したプロセス全体を自らの芸術としたのです。

1990年代以降の多文化時代、欧米中心で成立してきたアートシーンの脱中心化の機運と歩調をあわせるように、小沢剛はさまざまな国際展へ招待され、牛乳箱のアートも《新なすび画廊》として世界各地でプロジェクトを展開していきました。続いて発表した「相談芸術」のシリーズでは、《相談芸術大学》《相談芸術カフェ》、《相談芸術ホテル》などを展開。観客の意思によって変化していくというコンセプトは、アーティストの存在を希薄にしているようでいて、逆に小沢剛を1990年代以降の日本を代表する現代アーティストとして位置付けることとなりました。

《なすび画廊》で小沢が見せるユーモアに包まれた批判的精神は、2001年以降に制作されている《ベジタブル・ウエポン》シリーズでも継承されています。世界各地の鍋料理に使われる食材で銃を形作り、戦闘のイメージとは距離を置いた現地の少女をモデルに写真を撮影。その後、その食材で実際に鍋料理を振舞う

というもの。戦争の絶えない新世紀に、アートができる小さなプロテストといえます。また、鍋を囲んだパーソナルな関係を基準とするこのプロジェクトは、世界各地で継続されることで、世界の人々をひとつに繋げるグローバルなスケールへと発展しています。

一方、小沢剛の作品には、「昭和期の日本」を感じさせるものも少なくありません。70年代の高度経済成長期に育った世代が経験した社会環境の変化や、そこで無抵抗に失ってきたものへのノスタルジーが随所に見られますが、それは「日本」というアイコンを商品化しようとする時代への迎動的な姿勢ではなく、民俗学的な視点も含めた日本人による「日本文化」の再検証です。このことは、グローバル時代におけるローカルな文化の再検証、国際的なアートシーンにおける日本現代美術の新しい文脈化の試みでもあります。

美術館レベルでは小沢剛の世界初個展となる「小沢剛展」は、牛乳箱に始まった小沢の小宇宙が、ひとつひとつのパーソナルな関係を繋げていくことでグローバルに発展してきたスケール感を、小沢の初期作品からの主要作品と最新作で構成するものです。

本展はまた、森美術館の目的のひとつである日本およびアジアのアーティスト活動の奨励を具体化するものでもあり、時代を担う中堅のアーティストを「個展」形式で網羅し紹介する展覧会シリーズの第一回目となります。

PRESS RELEASE
プレスリリース



小沢剛 (おざわ・つよし)

略歴

撮影: R.HAGENBERG

1965年東京生まれ。91年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了。96年-97年 アジアン・カルチュラル・カウンシルの招聘によりニューヨークに滞在。主な参加展覧会に、「シティーズ・オン・ザ・ムーブ」(97年、ウィーン、ゼツェッション館ほか)、「横浜トリエンナーレ2001」(01年、パシフィコ横浜ほか)、「アンダーコンストラクション」[02年、東京オペラシティアートギャラリーほか]。昨年は第50回ヴェネチア・ビエンナーレにも参加するなど、世界各地で活躍中。昭和40年生まれのアーティストで構成される「昭和40年会」のメンバーの一人。

主な出展作品

・なすび画廊(1993-95)、新なすび画廊(1997-)

牛乳箱をギャラリーに見立て、アーティストにその中で作品を展示してもらう「世界最小の画廊」作品(参加アーティスト:草間彌生、中村政人、八谷和彦、福田美蘭、宮島達男ほか)。

・地藏建立(1987-)

世界各地で、風景の中に地藏を描き、写真に収めるシリーズ。小沢のライフワーク的作品。

数百枚の布団を使った山をのぼった先で、青みがかったモノクロ写真と対面することで、ノスタルジックな感覚が刺激される。

・ワンマングループショー(1997-)

「人間本来、いろいろな顔を持っているのでは」という問い掛けに始まり、小沢が岡本一太郎、二太郎、三太郎という三人格のアーティスト名のもとで、作品を発表した「ひとりによるグループ展」シリーズ。その後、四太郎、五太郎、六太郎も登場。本展ではシリーズ最新作も併せて発表。

・讃岐醤油画資料館(1999)

香川県坂出市の老舗醤油製造店、鎌田醤油のために制作された資料館。中世室から現代室まで小沢特有のパロディである醤油画の歴史を楽しめる。

・グローブジャングル(2000)

球形のジャングルジムに「プリクラ」のシールが貼られた立体作品。幼い頃の風景を思い出させるノスタルジー溢れる作品。

・ベジタブル・ウェポン(2001-)

各地で女性モデルを選び、彼女が選んだ食材を使って銃の形を作り、それを構えたポートレートを撮影するシリーズ。その後食材は鍋料理として食される。戦争の絶えない時代、アートができる小さなプロテスト。本展新作を含む21点を出品予定。

・アートサッカー(2002-)

日本と海外の2国間を、サッカーボールが往復しながら、それぞれの国のアーティストによって作品化されていくもの。「日本 VS スウェーデン」の新作を発表予定。

開館時間:月・水・木 10:00 - 22:00 金~日・祝前日 10:00 - 24:00
火 10:00 - 17:00

(いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休

入館料[円]:一般 1,500、学生(高校・大学生) 1,000、子供(4歳以上-中学生) 500 *表示料金に消費税込

*展望台入館料含、また本展のチケットでCOLORS ファッションと色彩展(2004年8月24日-12月5日)もご覧いただけます。

お問い合わせ:TEL03-5777-8600(ハローダイヤル)

主催:森美術館

後援:J-WAVE

協力:ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社、リュイナール(宝酒造株式会社)

〈カタログ〉

本展のカタログを展覧会に際して発売予定です。

PRESS RELEASE

プレスリリース

COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI

キャプション | CAPTIONS



COLORS ファッションと色彩： VIKTOR®ROLF®KCI

1. ヴィクター®ロルフ
ジャケット 2003年 秋冬
所蔵：京都服飾文化研究財団
写真：畠山崇
写真提供：京都服飾文化研究財団
2. 川久保玲/コム・デ・ギャルソン
ジャケット、スカート 2000年 秋冬
所蔵：京都服飾文化研究財団
写真：畠山崇
写真提供：京都服飾文化研究財団
3. ヴィクター®ロルフ
アルルカン 1998年 秋冬
所蔵：Groninger Museum
写真：Peter Tahal
写真提供：Groninger Museum
4. デイ・ドレッシング
1875年頃 イギリス
所蔵：京都服飾文化研究財団
写真：畠山崇
写真提供：京都服飾文化研究財団
5. ドレス (ラウンド・ガウン)
1795年頃 イタリア
所蔵：京都服飾文化研究財団
写真：畠山崇
写真提供：京都服飾文化研究財団
6. ヴィクター®ロルフ
ジャケット 2002年 春夏
所蔵：京都服飾文化研究財団
写真：畠山崇
写真提供：京都服飾文化研究財団

COLORS： VIKTOR®ROLF®KCI

1. VIKTOR®ROLF
Jacket Autumn/Winter 2003
Collection of the Kyoto Costume
Institute
Photo: Hatakeyama Takashi
Photo Courtesy: The Kyoto Costume
Institute
2. Kawakubo Rei / COMME des
GARÇONS Jacket, skirt
Autumn/Winter 2000
Collection of the Kyoto Costume
Institute
Photo: Hatakeyama Takashi
Photo Courtesy: The Kyoto Costume
Institute
3. Viktor®Rolf
Harlequin Autumn/Winter 1998
Collection of Groninger Museum
Photo: Peter Tahal
Photo Courtesy: Groninger Museum
4. Day dress
c. 1875 English
Collection of the Kyoto Costume
Institute Photo: Hatakeyama Takashi
Photo Courtesy: The Kyoto Costume
Institute
5. Dress (round gown)
c. 1795 Italian
Collection of the Kyoto Costume
Institute
Photo: Hatakeyama Takashi
Photo Courtesy: The Kyoto Costume
Institute
6. Viktor®Rolf
Jacket Spring/Summer 2002
Collection of the Kyoto Costume
Institute
Photo: Hatakeyama Takashi
Photo Courtesy: The Kyoto Costume
Institute

小沢剛：同時に答える YES と NO!



小沢剛：同時に答える YES と NO!

1. 小沢剛
《なすび画廊_バルコ木下展》
1994年
ミクストメディア
33.5x19.5x14.5cm
写真提供：オオタファインアーツ
2. 小沢剛
《新なすび画廊_小沢剛展》
2003年
ミクストメディア
32.9x20.2x14cm
写真提供：オオタファインアーツ
3. 小沢剛
《地藏建立_トルファン [中国]》
1988年
ゼラチンシルバープリントに着色
24.5x24.5cm
4. 小沢剛
《ベジタブル・ウェポン_さんまの
つみれ館/東京》
2001年
タイプCプリント
113.2x156.5cm
5. 小沢剛
《トンチキハウス》
2001年
横浜トリエンナーレ 2001での展示
風景写真
撮影：黒川未来夫

OZAWA TSUYOSHI: ANSWER WITH YES AND NO!

1. Ozawa Tsuyoshi
Nasubi Gallery - Parco Kinoshita
Exhibition 1994
Mixed media
33.5x19.5x14.5cm
Photo Courtesy: Ota Fine Arts,
Tokyo
2. Ozawa Tsuyoshi
New Nasubi Gallery - Tsuyoshi
Ozawa Exhibition 2003
Mixed media
32.9x20.2x14cm
Photo Courtesy: Ota Fine Arts,
Tokyo
3. Ozawa Tsuyoshi
JIZOING-Turpan [China] 1988
Gelatin silver print, toned
24.5x24.5cm
4. Ozawa Tsuyoshi
Vegetable Weapon: Saury fish ball
pot / Tokyo 2001
Type-C print
113.2x156.5cm
5. Ozawa Tsuyoshi
Tonchiki House 2001
Installation View at YOKOHAMA
2001: International Triennale of
Contemporary Art
Photo: Kurokawa Mikio

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。随時ご確認ください。

Please apply to use images at the Mori Art Museum website. WWW.MORI.ART.MUSEUM TEL: 03-6406-6111

PRESS RELEASE プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

アーキラボ：建築、都市、アートの新たな実験

会期：2004年12月21日（火）—2005年3月13日（日） 会場：森美術館 53階

1960年代から最新までの、建築の旅。 より豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探る。

「アーキラボ：建築、都市、アートの新たな実験」展は、膨大な建築資料のコレクションを持つフランス、オルレアン市のサントル地域現代芸術振興基金（以下FRAC CENTRE）と森美術館の共同企画展です。

FRAC CENTREのコレクションに、ポンピドゥー・センターの建築関係コレクションも合わせて紹介する本展は、建築家、アーティスト90名以上の模型、素描、映像などから成る約400点の作品を、建築史の流れに沿った4つのセクションで構成しています。時間軸に沿う形で各セクションをめぐることで、観客の皆さんには1960年代から最新の建築までの旅を体験していただけます。本展は建築、都市、アートの未来を探るべく、1960年代から世界の建築において行われた主要な実験の歴史的軌跡をたどり、さらにこれから生じる新たな革命の行方を提示します。

建築は私たちが「住むための機械」であり、時代精神と哲学を反映する表現であり、また人間が生きる形をどのように捉えたかを物語る証言でもあるでしょう。1960年代以降の現代建築史を鳥瞰しながらも、最終的に現在考えられる最も新しい建築の視点と可能性を紹介することで、本展はより豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探るものとなります。「アート&ライフ」をテーマに、現代美術やデザイン、ファッション、建築など様々なアートを紹介し、現在と未来への視点を発信する森美術館において、本展は建築をテーマにした最初の展覧会となります。建築表現が私たちの生活により身近になり、新しい時代の新しい建築を考える契機となることを期待するものです。

PRESS RELEASE プレスリリース

4部構成

I. 脈動する都市—実験室としての身体

60年代初頭、人間の細胞膜のように有機的なものとして捉えた建築史上の実験的建築が生み出されました。それらはコープ・ヒンメルブラウの「VILLA ROSA/ヴィラ・ローザ」やアーキグラムの建築アイデアに象徴されています。こうした実験建築を通して現代建築の源流を検証します。

II. 終わりなき都市—膨張する環境

60年代、世界的スケールで展開する「メガ・ストラクチャー」としての建築論を、日本のメタポリスト（黒川紀章、菊竹清訓）などの建築により検証。60年代の代表的な建築家、クロード・バラン&ポール・ヴィリリオの二人によって生み出された「傾いた都市論」（都市は元からある土地を持ち上げて作られたという意味で傾いた存在であり、交通という「傾斜角度」が住居地域を決定し、建築はこうした都市の強壮剤として働くという理論）を紹介します。

III. 解体される都市—新しいシンタクスの創造

60年代のアヴァンギャルド達によって高揚されたグリッドのモチーフ＝イタリアのスーパースタジオによるヒストグラムは、3次元的グリッドで際限なく拡張し、ヒエラルキーの無い構造の中に建築、そこに住む人間、そして都市をも吸収してしまうものでした。83年ベルナルド・チュミはコンビネーションの原理に基づき「狂気」が動く横糸としてラ・ヴィレット公園をデザイン、レム・コールハースによる70年代初期プロジェクトも、グリッドを含むラディカルな実験に影響を受けていました。そして80年代後半からはダニエル・リベスキンド、ザハ・ハッテッド、フランク・ゲイリーが加わり、脱構築と呼ばれる建築が続きます。

IV. 文脈化する都市—コンピュータがもたらす共生

コンピュータの最新技術が可能にしたバーチャルな建築デザイン、最新のテクノロジーによる建築素材が新しい世代の建築家たちの新たな実験／造形を可能にし始めています。ポンピドゥー・センター「ARCHITECTURES NON STANDARD / ノン・スタンダード」展（04年3月末まで）でも紹介されたNOX、ASYMPTOTE、KOL/MAC STUDIOやROCHE & SIE.、そして日本の建築家の試みを紹介します。

FRAC CENTRE

1991年より「ユートピアと実験」をテーマに、1950年代から現在までの世界中の貴重な建築模型及び資料を収集。また毎年、多数の建築関係者を世界中から招聘し「ARCHILAB」の名称で、建築に関する国際会議を開催。所蔵する建築には、日本人の作品も多数。

キュレーター：マリ＝アンジュ・ブレイエ（サントル地域現代芸術振興基金コレクション・ディレクター）、フレデリック・ミゲロー（ポンピドゥーセンター建築・デザイン部門チーフ・キュレーター）、南條 史生（森美術館副館長） 会場構成 隈 研吾

開館時間：月・水・木 10:00—22:00 金～日・祝前日 10:00—24:00
火 10:00—17:00（いずれも入館は閉館時間の30分前まで）会期中無休
入館料（円）：一般 1,500、学生（高校・大学生）1,000、子供（4歳以上～中学生）500 * 展望台 東京シティビュー入館料含 * 表示料金に消費税込
お問い合わせ：TEL03-5777-8600（ハローダイヤル）

主催：森美術館、FRAC CENTRE（サントル地域現代芸術振興基金）
助成機関：東京日仏学院、ARAFJ（*注1） フランス外務省フランス芸術文化活動協会（AFAA）（*注2） 協賛：鹿島建設株式会社
協力：日本航空

注1：ARAF/ASSOCIATION POUR LA RÉALISATION DE L'ANÉE DE LA FRANCE AU JAPON 注2：ASSOCIATION FRANÇAISE D'ACTION ARTISTIQUE

（カタログ）本展のカタログ日英版を展覧会に際して発売予定です。

今後の展覧会ハイライト

(2004年～)

1. アートが紡ぐ物語 (仮題)

会期: 2005年4月24日～2005年7月 会場: 森美術館

現代アートにおける物語性に着目し、ストーリーを感じさせる絵画、写真、ビデオなど多彩な作品を紹介します。現実と非現実の間をさまよう不思議なイメージの奥にひそむ様々なテーマ・家族、人種、ジェンダーなどは、今を生きる私たちが対面している問題でもあります。アーティストが「語る」物語と今日的テーマとの関係を探ります。

2. 杉本博司展 (仮題)

会期: 2005年10月中旬～2006年1月 会場: 森美術館

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園との共同企画です。

3. AFRICA REMIX: 現代アフリカ美術とその未来 (仮題)

会期: 2006年2月中旬～2006年5月中旬 会場: 森美術館

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ヘイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

4. ビル・ヴィオラ回顧展 (仮題)

会期: 2006年6月～2006年9月 会場: 森美術館

5. ホット & スパイシー: アジアのクリエイターの今を描く

会期: 2006年10月～2007年1月 会場: 森美術館

アジアのアート&カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギー溢れる芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

6. 路上の詩: フランス近代写真の軌跡

会期: 2007年2月～2007年5月 会場: 森美術館

写真史の上でも魅力的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

PRESS RELEASE
プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER



パブリックプログラム パブリックアートの本 「アート・デザイン・都市」(2冊)を刊行

六本木ヒルズ内に設置されているパブリックアートとストリートファニチャー、そして建築やランドスケープまでを含め、デザイン的な観点から文化都市六本木ヒルズを紹介する「アート・デザイン・都市 1：六本木ヒルズ パブリックアートの全貌」(写真：浅川敏)。2003年5月、六本木ヒルズの完成を記念して開催されたシンポジウム「アート、デザイン、そして都市」で収録された、パブリックアートプロジェクトに関わったクリエイター18人の肉声を紹介する「アート・デザイン・都市 2：六本木ヒルズ クリエーター18人の提案」。この2冊から、アーテリジェントシティ、六本木ヒルズの新たな姿を見つけ出していただけます。

「アート・デザイン・都市 1： 六本木ヒルズ パブリックアートの全貌」

監修、編集、制作：森美術館 編集ディレクション：森田伸子
写真：浅川敏 ブックデザイン：廣村正彰+木住野英彰
発売：株式会社六耀社
サイズ：B5判 頁数176頁(うちカラー104頁)
発行部数：3,500部
刊行予定：2004年7月下旬
予価：3,360円(税込)

「アート・デザイン・都市 2： 六本木ヒルズ クリエーター18人の提案」

監修、編集、制作：森美術館 編集ディレクション：森田伸子
ブックデザイン：廣村正彰+木住野英彰
発売：株式会社六耀社
サイズ：B5判 頁数176頁
発行部数：2,000部
刊行予定：2004年7月下旬
予価：2,940円(税込)

上記の本に関するお問い合わせは：森美術館 パブリックプログラム TEL: 03-6406-6101



MAM コンテンポラリー メンバーシップ・プログラム MAM コンテンポラリーナイト & 新メンバー・ウェルカムパーティー

通常17時閉館の火曜日の夜に、月1回森美術館のメンバーだけに美術館を開放する「MAM コンテンポラリーナイト」に加え、7月13日(火)はメンバー全員をご招待する、新メンバー・ウェルカムパーティーを開催いたします。当日は簡単なお飲み物とともにゲストを迎えるトークショーを予定しております。また、開催日当日に入会された方も、パーティーにご参加いただけます。入会は森タワー ミュージアムコーン3階 MAM コンテンポラリーカウンターにて受け付けております。

開催日：2004年7月13日(火)
開催時間：MAM コンテンポラリーナイト 18:00 - 22:00 (森美術館52階・53階)
新メンバー・ウェルカムパーティー 19:30 - 21:30 (森美術館53階)
参加費：無料 *詳細は後日メール配信ニュースにてお知らせいたします。

MAM コンテンポラリー メンバーシップ・プログラム

森美術館(MORI ART MUSEUM = MAM)が提案するメンバーシッププログラム、MAM コンテンポラリーはアートを楽しむ、有効に美術館を利用していただくために創設した会員組織です。

*入会の際に申し込み用紙の記入と入会金・年会費を頂戴(現金・クレジットカード・銀行振込)しております。くわしくは下記までお問い合わせください。森美術館 WEB サイトでも詳細をご覧ください。
森美術館 MAM コンテンポラリー係 TEL: 03-6406-6123

PRESS RELEASE プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER